

令和5年 新年の挨拶

全国海友婦人会 会長 酒井 智代子

謹んで新年のお慶びを申し上げます。

全日本海員組合の皆様、そして海上の職場で新年をお迎えの組合員の皆様には、ご苦勞様でございます。

2023年の干支は卯年です。今までの数年間から大きく「飛躍」し、私たちの生活が大きく「向上」する年になってほしいものです。全日本海員組合の皆様におかれましては、新型コロナウイルス感染症の現況にありましても、課せられた使命を果たさんとすべく、日々がんばり邁進されておりますことに深く敬意を表す次第です。

私たち全国海友婦人会は、昨年10月にナビオス横浜において全国大会を4年ぶりに開催いたしました。引き続き私が会長に選任されましたが、年齢を重ねた老化を考えると一抹の不安もありますが、私に与えられためぐりあわせの人生、苦樂を学びととらえ、身を引き締めて覚悟を新たにいたしました。

全日本海員組合、そして組合員の皆様の絶大なるご支援ご協力を得ながら、皆さんの英知を結集して、時代に合った役目をしていきたいと考えております。これからも変わらぬご指導ご鞭撻を賜りますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。

今年も全日本海員組合の皆様と、車の両輪としてコロナ禍のなか、世の中の状況をしっかりと把握したうえで、身を引き締め、女性の立場から全国海友婦人会の小さな家族の声を大きな力に変えるべく、広い視野に立って、一緒に進んで活動してまいります。紙面を海に囲まれた日本は、海運業、水産産業があって経済が成り立っています。その職場で働く船員の重要性は国民に理解されている部分が狭く、日本人船員が減少、高齢化している現状は一般にはあまり認識されていません。日本人船員確保、育成ということは、国策で、早急に取り組まなくてはならないほどになっています。船員が働く職場の安全を確保してもらい、家族も安心してよりよい生活が送れることを願っています。

若者に船員の魅力をアピールしなければなりません。職場環境を整え、税制面での優遇を受け、収入の増加により生活の安定を得ること、これは現役船員の生活向上にもつながる重要なことです。さらに国民に海への関心を持ってもらうためにも「海の日」はぜひ7月20日に戻していただく運動を家族の立場から陳情先にアピールしたいと思います。会員の高齢化で全国海友婦人会も組織の拡充に頭を痛めておりますが、親睦・融和を図り、本部と各支部が助け合い、協力し合って、組織の維持、強化、継続に努めてまいります。

こらからの世界情勢は、新型コロナウイルス感染症や戦争、そして自然現象の変化により、国民にとって将来への不安が内在する環境下にあるように思いますが、感染症や戦争が一日も早く終息し、平穏な日々が戻る世の中になることを願っています。

全日本海員組合と一緒に新たな発展を願い、全国海友婦人会は役員一同をはじめ、地域の支部長ともども、今年も活動してまいりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

職場のご安全とご安航、そして「卯」の年が最良の年になりますようにお祈り申し上げます。

「海員だより」